

# 令和5年度 向栗崎小学校評価報告書

(本校の実態に応じた学校評価書)

①よくあてはまる ②あてはまる  
③あまりあてはまらない ④まったくあてはまらない

重点目標	主な具体的取組	現状	評価の観点	評価方法	実施状況の達成度判断基準	評価	①	○成果 ◆課題 ・改善策
学力の向上	自ら考え、学び合う児童の育成	思いや考えを伝えようとする気持ちをもちながら、根拠を明らかにして自分の考えを説明したり、自分の考えと友達の考えを比べたりしながらかわり合っで学ぶ姿が求められる。	主体的に取り組むことができるような課題の設定を工夫している。〔努力目標〕	教職員アンケート	A:①+②が90%以上 B:①+②が75%以上 C:①+②が60%以上 D:①+②が60%未満	学習A 94.4%	16.7%	○教材研究の際に、児童が主体的に取り組むことができるような課題の設定の工夫を意図的に行うことができた。
			学習用語やキーワード等を用いて、課題に正対したまとめを書かせる指導を行っている。〔努力目標〕	教職員アンケート	A:①+②が90%以上 B:①+②が75%以上 C:①+②が60%以上 D:①+②が60%未満	学習A 83.3%	38.9%	○児童に考えを持たせる場面やかかわらせる場面でICTの活用等を進め、1人1台端末で考えを共有することができた。
			課題に対して考えをもたせるための工夫をしている。〔努力目標〕	教職員アンケート	A:①+②が90%以上 B:①+②が80%以上 C:①+②が60%以上 D:①+②が70%未満	学習A 100%	33.3%	◆考えを共有することはできているが、それをもとに授業を練り上げることができていない。 ◆課題や問題に対して正対した答え方ができていない児童が少なくない。学習用語やキーワードを用いてまとめを書くことには個人差が見られる。
			児童をかかわらせるための工夫をしている。〔努力目標〕	教職員アンケート	A:①+②が90%以上 B:①+②が80%以上 C:①+②が70%以上 D:①+②が70%未満	学習A 94.4%	50.0%	・かわり合う場面で、児童の発言を明確にしたり他の児童に広めたりする働きかけを行う。 ・板書等からキーワードを見つけ、児童自らが課題に対して正対したまとめを書くことができるよう、日々の授業で指導を継続する。
			授業を通して、できることが増えたり、考えがより深くなったりした。	児童アンケート	A:①+②が90%以上 B:①+②が75%以上 C:①+②が60%以上 D:①+②が60%未満	学習A 93.4%	59.3%	
豊かな心の育成	児童が互いを認め合う温かい学級づくり	お互いのよさやがんばりを認め合う雰囲気はあるが、児童の自己有用感の高まりまでにはつながっていない。	児童が互いを認め合える具体的な取組をしている。〔努力目標〕	学級・教科経営案	A:①+②が90%以上 B:①+②が80%以上 C:①+②が70%以上 D:①+②が70%未満	生徒指導A 93.3%	27.0%	○「友達のいいところを見つける」ことを中心に取組を進めてきたため、約9割の児童が肯定的評価をしている。 ◆友達から認められているとした児童の割合が8割に届かなかった。
			「心のアンケート」をもとに、子どもと自分や友達のよさや頑張りについて話し合う時間をもった。〔成果指標〕	保護者アンケート	A:①+②が80%以上 B:①+②が65%以上 C:①+②が50%以上 D:①+②が50%未満	生徒指導B 79.2%	19.9%	・行事・授業を中心とした「いいところ見つけ」の取組を行う際に、カードを書く相手を増やし、「認めてもらった」と感じる児童を増やしていく。
			友達のよいところや頑張りを認めている。〔成果指標〕	児童アンケート	A:①+②が80%以上 B:①+②が65%以上 C:①+②が50%以上 D:①+②が50%未満	生徒指導A 88%	46.2%	
			友達から認められている。〔成果指標〕	児童アンケート	A:①+②が80%以上 B:①+②が65%以上 C:①+②が50%以上 D:①+②が50%未満	生徒指導B 76.6%	36.3%	
場をとらえた「あいさつ」指導の実施	あいさつには個人差が大きく、来校者や地域の方へのあいさつはままできない児童も多い。	友達や先生、地域の方へあいさつが定着するように指導した。〔努力目標〕	学級・教科経営案	A:①+②が90%以上 B:①+②が80%以上 C:①+②が70%以上 D:①+②が70%未満	生徒指導・特別活動A 100%	31.3%	○めざすあいさつの姿を全校で確認し、計画委員会を中心に「先あいさつ」を進め、児童の肯定的評価が9割を超えた。 ◆児童の肯定的評価が高いが、児童間での差がある。	
		子どもは家庭や地域で進んであいさつをしている〔成果指標〕	保護者アンケート	A:①+②が90%以上 B:①+②が80%以上 C:①+②が70%以上 D:①+②が70%未満	生徒指導・特別活動B 81.7%	24.0%	「先あいさつ」を推進し、学校内だけでなく、普段の生活にも広げられるように、児童の「できそう」を大切にしながら働きかけていく。	
		先生、友達、地域の方へ自分から進んであいさつができる〔成果指標〕	児童アンケート	A:①+②が90%以上 B:①+②が80%以上 C:①+②が70%以上 D:①+②が70%未満	生徒指導・特別活動A 92.6%	64.8%		
健康と安全育・安心充実で健やかな教育	「早寝・早起き・朝ごはん」の育成を通じた基本的生活習慣の確立	家庭への理解を図りながら、早寝、早起きの基本的な生活習慣の定着により、目標の時刻までに寝ることができている児童を、より一層増やしていく必要がある。	児童が健康（生活プランニング）や安全に気をつけて生活するための指導をした。〔努力目標〕	教職員アンケート	A:①+②が90%以上 B:①+②が80%以上 C:①+②が70%以上 D:①+②が70%未満	保健安全A 100%	39.0%	○教師側からは意識して指導をすることができている。 ◆低学年のA+Bの割合が最も低く、C・Dの割合は最も高い。中・高学年も改善は見られない。取り組みの改善が必要。 ・睡眠時間を確保することのよさや睡眠時間が減ることのデメリットなどを啓発する。
		子どもは学年の目標の時間に寝ている。〔成果指標〕	保護者アンケート	A:①+②が95%以上 B:①+②が85%以上 C:①+②が75%以上 D:①+②が75%未満	保健安全 100%	32.3%		
		学年の目標の時間に寝ている。〔成果指標〕	児童アンケート	A:①+②が95%以上 B:①+②が85%以上 C:①+②が75%以上 D:①+②が75%未満	保健安全D 72.1%	32.8%		
連携・協働	地域人材の活用、地域交流の活性化による教育活動の充実と地域貢献	開かれた教育課程の実現のために、より一層地域人材の活用・地域交流を活発に行っていくとともに、学校の取組や児童の様子を積極的に発信していく必要がある。	地域人材を活用した授業を行った。〔成果指標〕 ①: 3回以上 ②: 2回 ③: 1回 ④: 0回	教職員アンケート	A:①+②が80%以上 B:①+②が65%以上 C:①+②が50%以上 D:①+②が50%未満	教務	各学年1回	○どの学年も1学期中に1回以上の地域人材を活用した授業を行った。年間を通して計画的に実践できている。
働き方改革	業務の適正化を図るとともに、「ノー残業デー」の具現化を図る	月によっては超過勤務時間が80時間を越える職員もいる。	ノー残業デーには、特別な場合を除き、6時を目処に業務を終了した。〔成果指標〕 ①毎週 ②月2回程度 ③月1回程度 ④できなかった	勤務時間記録	A:①+②が80%以上 B:①+②が65%以上 C:①+②が50%以上 D:①+②が50%未満	教頭B 75.0%	37.5%	○昨年度同時期と比較し、大きく改善できている。教職員の意識が高まり、改善につながった。 ◆時間外勤務時間が多い職員が固定化しており、教頭、主任主事層が多くなる傾向が
学校評議員による意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校経営方針がよくわかった。小学校の取組について、心配ないと感じた。</li> <li>・聴き方・話し方について全校で取り組むための掲示物がよい。</li> <li>・時間的に眠たくなるような午後であるにもかかわらず、子供たちに声を届けようとする先生のかかわりがよかった。</li> <li>・子供たちも受け身にならず、取り組んでいた。</li> <li>・個別に指導が必要な児童に対しては、今後も継続して指導していかなければならない。</li> <li>・児童委員会による健康クイズも、児童の主体性が感じられる。</li> <li>・防犯ボランティアとの交流について、紹介式や感謝の会が復活したことはとてもよいこと。</li> <li>・アカシア交差点の安全について、よくなってきた。ボランティアさんとの共通理解もできたせいか、交通ルールを守っている様子がみられた。</li> <li>・大規模改修工事とのかかわりで、子供たちの活動への影響が心配だが、いろいろな面で配慮されているとのことよかった。</li> </ul>						